

平成 19 年度花壇管理状況

土井環

平成 19 年度は、これまでの花壇品目に、新規の 3 品目を加えて、植栽を行った。また、水管理については、従来の手かん水に加え、かん水チューブによる管理も行った。表 1 に花壇植物植栽状況を、図 1 ～ 6 に各花壇の植栽デザインを、図 7 に園内花壇位置図を示した。

新規品目について

例年、7 月上旬の植替えは、梅雨の時期と重なることもあり、定植後に病気が発生しやすく、生育が順調に進まなかった。またこれまで花壇用花材は、単価が安く、入手しやすいことを基準に植物を選定

していたため、草丈が低いものが多く、植栽が単調になる傾向があった。これらの課題を踏まえ、今年度、5 月上旬から 8 月下旬頃まで継続可能で、従来のものより草丈がある花材を検討し、以下の 3 品目を導入した。

ハナアロエ（ユリ科） 一般にポット苗が流通しないこともあり、地元の生産者に増殖生産を依頼した。5 月中旬と 7 月上旬に、3 号ポットの苗を 20cm 間隔で植え付けた。5 月中旬に植え付けたものは、6 月中旬には花揃いとなった。梅雨時期には株が蒸れて地際が腐るものがあった。花後、花茎がそのまま残るため、8 月に入ると古い花茎が目立ち若干見苦しい。ただし、多肉質の植物であるため、真夏でもかん水の必要はなく、常に葉はみずみずしい状態で茂っている。自然風の植栽であれば花壇花材として十分使用可能と思われた。8 月下旬の抜き

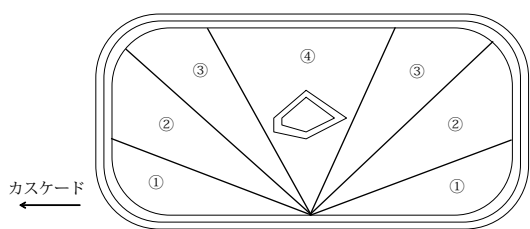


図 1-1. 大花壇（初夏・夏・冬）

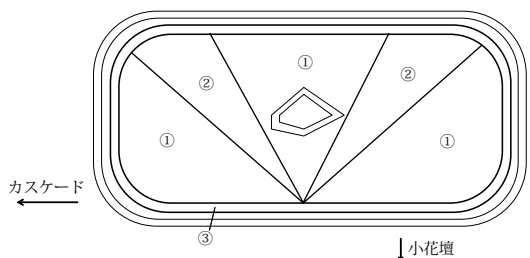


図 1-2. 大花壇（秋）

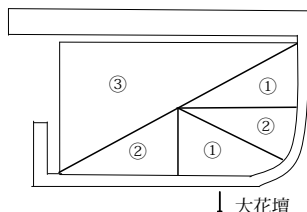


図 2-1. 中花壇（初夏・夏）

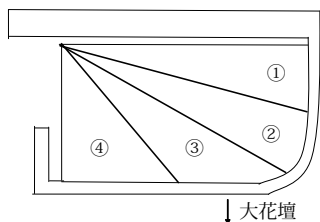


図 2-2. 中花壇（秋・冬）

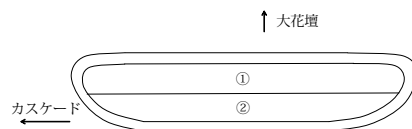


図 3-1. 小花壇（初夏）

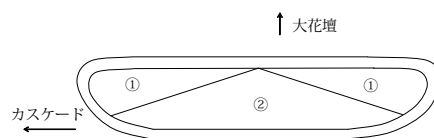


図 3-2. 小花壇（秋・冬）

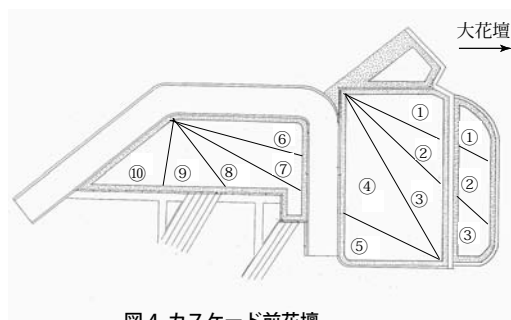


図 4. カスケード前花壇

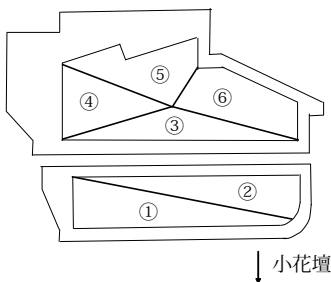


図 5. カスケード池下花壇



図 6-1. 芝生北花壇（初夏）

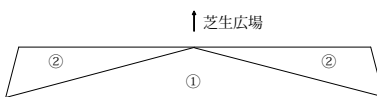


図 6-2. 芝生北花壇（冬）

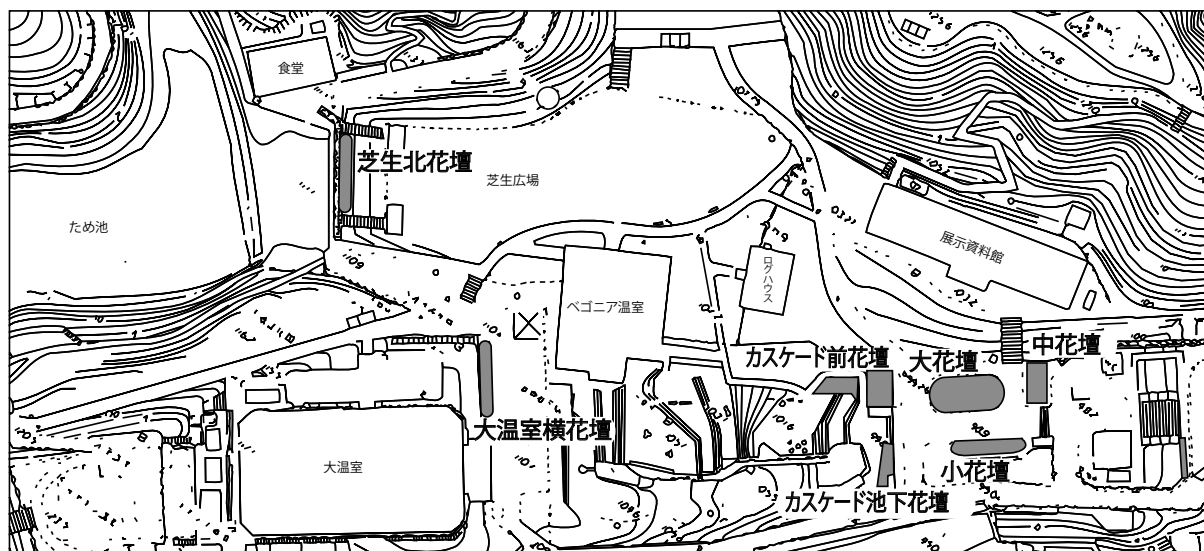


図 7. 園内花壇位置図

表 1. 平成 19 年度花壇植物植栽状況

花壇名	初夏	夏	秋	冬	早春
大花壇	ベゴニア・センパフローレンス 赤①④ ベゴニア・センパフローレンス 桃② ベゴニア・センパフローレンス 白③ (5月11日植え付け)	コリウス 白緑①③ コリウス 橙② ハナアロエ ④ (7月13日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青① サルビア・スプレンドゥス 赤② アキランサス 赤③ (8月24日植え付け)	パンジー 橙① パンジー 黄② ハボタン(丸葉) 赤③ ハボタン(丸葉) 白④ (11月15日植え付け)	アイスランドポピー 混合③ アイスランドポピー 混合④ (2月22日植え付け)
中花壇	ベゴニア・センパフローレンス 桃① ベゴニア・センパフローレンス 赤② ハナアロエ ③ (5月18日植え付け)	コリウス 白緑① コリウス 橙② (7月12日植え付け)	サルビアファリナセア 白① サルビア・スプレンドゥス 赤② サルビア・ファリナセア 青③④ (8月31日植え付け)	パンジー 黄①③ ノースポール ②④ (11月16日植え付け)	
小花壇	ハナアロエ ① (5月11日植え付け) ツルレイシ(ゴーヤー) ② (5月16日植え付け)		サルビア・スプレンドゥス 赤① サルビア・ファリナセア 青② (9月18日植え付け)	パンジー 橙① パンジー 黄② (11月16日植え付け)	
カスケード前	ベゴニア・センパフローレンス 桃①⑤⑦⑩ ベゴニア・センパフローレンス 赤②④⑥⑨ ベゴニア・センパフローレンス 白③⑧ (5月11日植え付け)	コリウス 橙①⑤⑥⑨ コリウス 白緑②④⑦⑩ ハナアロエ ③⑧ (7月12日植え付け)	サルビア・スプレンドゥス 赤①③⑤⑥⑨ サルビア・ファリナセア 青②④⑦⑩ サルビア・ファリナセア 白⑧ (8月31日植え付け)	パンジー 黄①④⑨ ハボタン(丸葉) 白②⑦ ハボタン(丸葉) 赤③⑥⑩ パンジー 橙⑤⑧ (11月16日植え付け)	アイスランドポピー 混合②⑦ アイスランドポピー 混合③⑥⑩ (2月22日植え付け)
カスケード池下	ベゴニア・センパフローレンス 赤① ベゴニア・センパフローレンス 桃②④⑥ ハナアロエ ③⑤ (5月18日植え付け)	コリウス 白緑①④ コリウス 橙②⑥ (7月12日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青①④⑥ サルビア・スプレンドゥス 赤②⑤ サルビア・ファリナセア 白③ (8月31日植え付け)	ノースポール ①③⑤ パンジー 橙②④ パンジー 黄⑥ (11月16日植え付け)	
大温室横	おすすめ品種展示 チョコレートコスモス (5月22日植え付け) ペチュニア ソプラノ(4品種) (5月29日植え付け) アブチロン他(20品目68品種) (6月5日植え付け)		サルビア・マリーゴールド他補植 (9月19日植え付け)	ノースポール キンギョソウ 3品種 (11月15日植え付け)	
芝生北	サンパチェンス ホワイト① サンパチェンス オレンジ② サンパチェンス 斑入りサーモン③ サンパチェンス マジェンタグラデ④ (5月18日植え付け)		サルビア・コリウス他補植 (9月7日植え付け) サルビア・コリウス他補植 (9月7日植え付け)	ノースポール ① パンジー 青② (11月14日植え付け)	

取り時には草丈 60cm となった。当園では地植えのまま越冬し、翌年も花を咲かせた。

ツルレイシ(ウリ科) 平成 19 年度から始まった夏のイベントにあわせて、小花壇の一部を使ってビニールハウス用パイプでアーチを組み、ツルレイシを植栽した。4 月中旬に 3 品種(鳥さんご、白れいし、さつま大長れいし)をは種、5 月下旬に 1 m

間隔で定植した。7 月の高温期に入るとつるが勢い良く伸び始め、7 月下旬から果実を鑑賞できた。つる植物を用いることで、立体的な植栽となり、特に果実は、来園者に好評であった。8 月中旬頃から、過熟になった果実が落下し始めたので、毎朝、開園前に果皮が黄変したものを収穫した。9 月に入ると勢いが落ち、イベント終了後(9 月中旬)に抜き取っ

表 2. 平成 19 年度花壇植物生育状況

植物名	生育状況	評価
ベゴニア・センパフローレンス	期間を通じて良好	○
コリウス	病害虫発生、後半徒長する。品種選定が必要	△
ハナアロエ	梅雨時期に株が蒸れる	○
ツルレイシ	9 月に入ると葉が黄変する	○
サンパチェンス	斑入りサーモンとホワイトの品種が活着悪く、白絹病が発生	○
サルビア	猛暑のため活着まで時間がかかる	○
アキランサス	ヨトウムシの害あり	○
パンジー	開花数、株立ちともに良好	○
ハボタン	白葉に軟腐病発生	△
ノースポール	3 月頃病気がでる。後半大株になるのでデザインを考える	△
アイランドポピー	生育、株立ちともに良好 華やかさに優れる	◎

◎：有望、○：十分使用可、△：時期、場所を選べば使用可、×：使用不可

た。3 品種のなかでは島さんが成育旺盛で、後半も樹勢が落ちなかった。

サンパチェンス（ツリフネソウ科） 昨年、種苗会社から「ガーデニングおすすめ品種展示」に提供を受け、今年度から本格的に花壇花材として導入した。暑さに強く花期が長い、大型になるというメリットを生かすためには、追肥、切り戻し等こまめな管理が必要となる。今回植え付け間隔を 50cm としたため、初期に乾燥したのか、斑入りサーモンとホワイトの 2 品種の活着が悪く、しおれがひどかった。また 8 月にはこれらの品種に白絹病が発生し、9 月上旬に部分的に抜き取った。他の品種は順調に生育したことから、初期にスムーズに活着させることが栽培のポイントと思われた。8 月下旬には雨等で株が倒れやすくなったため、傾倒防止のため、花壇の周囲と株間に 19mm のハウス用パイプで枠を組んだ。ボリュームがあり、花色が鮮やかなので、公園のような広い空間での植栽は非常に映える。

植栽デザイン

入り口を入って一望した際、花壇の広がりを見せるため、直線を生かしたデザインとした。直線の場合、ある程度細かいデザインでもすっきり見えるため、反対にもっと細かく区切った方が良い花壇もあった。またサルビアの青・白・赤の使い方が、残暑が厳しい 9 月～10 月中旬は、青や白の面積が多い方が涼しく見え、それ以降は、赤の面積が多い方が秋らしさを演出できる。サルビアの青は他の 2 品種に比べて生育も順調で、管理が容易であるため多用する傾向があるが、上記のことをふまえ数量を考慮する必要があると感じた。

ガーデニングおすすめ品種展示花壇の継続設置

昨年度に引き続き、大温室横花壇において、3 社

の種苗会社と共催で、「ガーデニングおすすめ品種展示」を行った。各種苗会社の最新品目とそれらの生育状態が初夏から継続して観察できる等、家庭園芸の参考になることから来園者に好評であった。アンゲロニア等、今後の花壇用花材として有望な品目があった。

栽培管理状況

各植物の生育状況は表 2 のとおりである。

パンジー（H 18 年度植え付け分）：ゴールデンウィークあけの植え替えまで良好な状態を保つため、4 月中旬にすべての花壇において花がら取りを行った。同時に灰色かび病が発生していたので、ゲッター水和剤（希釈倍率 1000 倍）を散布した。ゴールデンウィークを過ぎると、一気に傷みが進んだ。

ベゴニア・センパフローレンス：今年度は雨が少なかったせいか、茎腐病も発生せず、また草丈も抑えられたため、植え替えまでコンパクトな状態で、植栽デザインが乱れることがなかった。6 月上旬にヨトウムシが発生したため、カルホス乳剤（希釈倍率 1000 倍）を散布した。

コリウス：ウィザードシリーズの「サンセット」と「ジェイド」を植栽した。前年度、ネキリムシにより地際部が食害を受けたため、今回は、植え付け時に、カルホス微粉剤を土壌混和した。7 月下旬から、サンセットのしおれがひどく、朝・夕 2 回のかん水が必要となった。ジェイドには部分的にリゾクトニア菌が原因と思われる軟腐症状が発生したが、リゾレックス水和剤の散布である程度おさまった。

サルビア・スプレndenシス、サルビア・ファリナセア：8 月下旬に植え付けたが、ファリナセアに比べ葉の大きいスプレndenシスのしおれがひどく、一番花をすべて切って対処した。サルビアは活着すれ

ば、花茎がすぐ上がるため、今後スプレンドゥスについては、あらかじめ1番花を切り、植えつけた方が良いと思われた。また9月始めに、かん水チューブを設置した。これまでは、美観を損なうことから、かん水チューブの設置は控えてきたが、この時期の植え付けについては、従来からの手かん水だけでは、十分水が行き届かず、生育が順調に進まないため、手かん水と併用することとした。前年度は、サルビアが活着する9月中旬まで、ほぼ毎日手かん水を行ったが、今回かん水チューブの設置することで、水やりの手間を大幅に削減できた。生育が順調に進めば、早期にかん水チューブも覆われて見えなくなるため、美観上もそれほど問題はないと考える。

アキランサス：ヨトウムシによる葉の食害で、株のボリュームがでないまま抜き取りとなったか所があった。

パンジー：デルタプレミアムシリーズの「ピュアライトブルー」、「ピュアゴールデンイエロー」、デルタシリーズの「ピュアディープオレンジ」を植えた。2月上旬、3月下旬と花がら取りを行った。

ハボタン：寒さが厳しかったため、2月下旬の抜き取りまで軟腐病等の病気にかかることなく順調に生育した。

ノースポール：2月の中旬から菌核病が発生した。発生初期にトップジンM水和剤を散布し、罹病株は抜き取った。また3月後半には、株が込み合って徒長し始めたので、株の間引きを行った。

アイスランドポピー：2月下旬に定植した後、雪が降り、株の傷みを心配したが、特に問題なく生育した。

その他：大温室横花壇と芝生北花壇は5月下旬から11月下旬までの長期間の植栽となったため、部分的に生育不良等が生じ、9月上・中旬に補植を行った。サルビア、マリーゴールド、アキランサス、コリウス（ブラックベリーワッフル、ウオルターターナー、ムーンライト、サンセット）、サルビア・レウカンサを用いた。

今後の課題について

1. 新規品目の検討と植栽方法

種苗会社から発売される新品目以外にも、今回導入したハナアロエのように、これまで花壇材料としては用いられなかった品目も検討していくことが必要と思われる。しかし、これらは、一般に流通量が少ないため単価が高くなることが想定される。こ

のためコストの面からロングランの植栽が可能となる植物でなければ導入は難しい。しかし長期植栽を行った場合、いくつかデメリットが考えられる。まず、季節感のない花壇となり、来園者に飽きられやすい。次に、切り戻し等が必要となり管理に手間がかかる。また病害虫等で植物が傷んだ場合、通常は、抜き取り時期を早め、全面植え替えとするが、部分植え替えで対応せねばならず、その際、植栽デザインを考慮しながら補植用植物を選定するなど、細かな対応が求められる。特に9月は、花壇用苗が手に入りにくいいため、夏から挿し木などで苗を準備しておくことも必要となる。

これまで冬花壇で行ってきた部分植え替え（2月にハボタンのみアイスランドポピーに植え替え、パンジーはそのまま据え置く）の手法を用いるなどして、常に来園者に目新しさを感じさせるような、品目とその植栽方法の検討を行いたい。

2. 管理記録の充実

大面積の花壇を管理する場合は、必要な作業をタイミングよく行えるよう、植え付け時期、植栽間隔、施肥時期等、綿密な計画を立てておくことが必要となる。そのためには、年度ごとの管理記録を充実させ、それを設計段階で十分に生かしていくことが大切である。また近年は、公園管理等を行うボランティアグループの視察が増え、花壇担当者に実践的なアドバイスを求める機会が多くなっている。記録を充実させ、ノウハウを蓄積していくことは、このような市民ニーズにも十分に対応できるものと思われる。